

シングルゴルフプレイヤーに生じた os peroneum 障害を伴う 長腓骨筋腱断裂の 2 例

○松田 剛典, 富和 清訓, 谷口 晃, 熊井 司, 田中 康仁

奈良県立医科大学 整形外科

Os peroneum の骨折を伴わない長腓骨筋腱断裂断裂は比較的稀である。今回我々は上記を発症したシングルゴルフプレイヤーの 2 例を経験したので報告する。

【症例 1】

59 歳男性。以前よりゴルフスイング時に疼痛を自覚していた。近医にて単純 X 線で os peroneum が認められ保存的加療をおこなっていた。足関節を内がえしに捻挫した際に疼痛が増強したため当科受診。単純 X 線, CT では os peroneum は本来の位置より近位の外果下方に確認された。術中所見では os peroneum の近位約 1.5 センチの部分で断裂を認めた。os peroneum を摘出し、端々吻合が不可能であったため長腓骨筋腱の近位及び遠位の断端をそれぞれ短腓骨筋腱に縫着した。術後経過は良好で 3 カ月でゴルフ競技に復帰し、プレーに支障を認めていない。

【症例 2】

58 歳男性。以前よりゴルフプレー後に右足外側に疼痛を自覚し、近医で保存的加療をおこなっていたが改善みられず手術目的で当科紹介受診となった。単純 X 線では os peroneum は踵立方関節よりやや近位に存在していた。MRI 像では os peroneum の周囲組織に炎症像を認めた。術中所見では長腓骨筋腱は os peroneum の末梢にて瘢痕様組織で一部連続性が保たれていた。手術は同様に os peroneum を摘出し、長腓骨筋腱の近位及び遠位の断端をそれぞれ短腓骨筋腱に逢着した。術後 3 カ月でゴルフに復帰し経過良好である。

【考 察】

長腓骨筋腱の断裂の原因としては足部内がえしの強制や、os peroneum またこれらに引き続いておこる慢性的な腱鞘炎などの報告がある。ゴルフのスイングをする際、長腓骨筋腱はバックスイングとフォロースルー時に収縮する。今回の症例では長年にわたりゴルフをおこなってきたことで長腓骨筋腱が変性脆弱化をおこし、断裂にいたったのではないかと考えられた。